



here

ケーススタディ

村田製作所、 HERE位置情報で 交通データの価値を向上

ジャカルタ市で独自開発のセンサーで道路を行き交う車両の動きを検出し、交通量データとして販売している村田製作所。HEREの地図関連情報と組み合わせることでデータの価値を高め、海外を含む事業拡大を積極的に図っています。

村田製作所が抱えていた課題

交通量データの価値を高め、
多くの課題を解決したい

[続きを読む](#)

HEREが提供したソリューション

地図関連データを簡単に活用できる
開発環境とコミュニティ

[続きを読む](#)

村田製作所の今後の展望

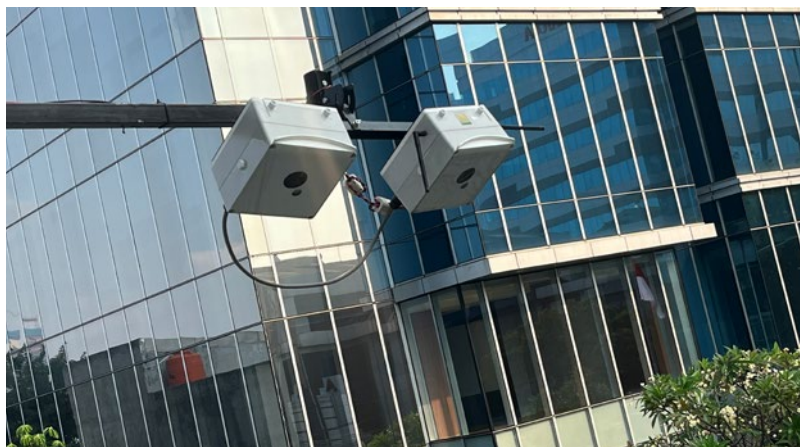
HEREのコミュニティで
ビジネスチャンスを拡大

[続きを読む](#)

村田製作所が抱えていた課題

交通量データの価値を高めて多くの課題を解決したい

村田製作所は自社センサーを活用して取得した交通量データを販売する「トラフィックカウンタシステム」事業を東南アジアなどで展開しています。2022年には交通渋滞緩和や都市計画策定に役立てるためにジャカルタ州政府が導入しました。さらなる事業拡大に向けデータの付加価値を向上させることを目指し、HEREと提携を結びました。



トラフィックカウンタシステムは、優れた耐環境性能を持つLiDAR技術を採用。雨や夜などの環境変化によらない高精度な交通量データに加えて、乗用車・大型車など車種情報を分類したデータも取得可能だ

同社のトラフィックカウンタシステムのセンサーは現在、ジャカルタ市内の101カ所で稼働しています。同システムはインドネシア政府公認のeカタログに登録されており、2024年以降も設置台数が増える見込みです。「レーザー光を使ったLiDAR技術で自動車やバス、バイクなど車両の種類を1台1台特定でき、カメラを使う他社と比べ雨や光量などの環境による特性劣化が少ない点が評価されました。混雑状況をスコアで示し渋滞緩和対策に貢献しています」と同社の津守 宏晃氏は話します。

同社は、提供するデータの付加価値をさらに高めたいと考えていました。「それまではデジタル化した地図上に取得した交通量データを単純に重ねただけです。私たちが求めていたのは、様々なデータを組み合わせる新たな価値を生み出すこと。当社が取得できるリアルタイムで詳細な交通量データと、HEREが持つ多様で広範囲にわたる道路関連の情報を組み合わせれば“点と面”から交通社会が抱える課題を幅広く解決できると期待しました」。

交通量データに様々なデータを組み合わせ 新たな価値を生み出すことが必要でした

津守 宏晃 氏
株式会社村田製作所 IoT事業推進部 プロジェクトマネージャー

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS

村田製作所について

1944年の創業以来、独自製品の提供を通じて社会課題を解決し、新しい価値を提供してきました。同社の電子部品はテレビ、PC、スマートフォンなど暮らしに欠かせない電子機器に使われています。関係会社を海外に置くなどグローバルにも展開しており、IoTの進展に伴い通信、モビリティ、環境、ウェルネスなど事業領域も拡大。コーポレートスローガン「Innovator in Electronics」のもと、新規事業開拓にも積極的に取り組んでいます。

なぜ HERE？



実績に裏打ちされた提案力

データを活用したビジネスに対する豊富な知見からの有益な提案



多様な道路関連情報

工事状況や事故発生地点、気象などの情報を生かして交通量データに新たな価値を付加



使いやすい開発環境

優れた開発環境により約3カ月の短期間でアプリ構築



便利なAPI

APIでHEREが持つ様々な道路関連情報から必要なデータを容易に活用



柔軟な価格体系

村田製作所のニーズに合わせた価格体系でサービスを提供



HEREが提供したソリューション

地図関連データを簡単に活用できる開発環境とコミュニティ

村田製作所はHEREと2023年に提携を締結。トラフィックカウンタシステムとHEREのプラットフォームを組み合わせることで、データ販売サービスの競争力向上を図っています。HEREの優れた開発環境により、工事状況や事故発生地点、気象情報といったHEREの様々なデータを交通量データと組み合わせるアプリケーションを約3カ月の短期間で構築しました。



トラフィックカウンタシステムの開発に携わった津守 宏晃氏(写真左)。山口 陽平氏(写真右)は「他社のプラットフォームに比べてHEREはフレキシビリティが高い」と話す

「HEREが提供しているのは、地図を中核とした“プラットフォーム”です」。同社の山口 陽平氏はこう強調します。「HEREのプラットフォーム上で当社やパートナー会社が取得したデータを組み合わせることで、新たなアプリケーションを容易に開発することができます。API(Application Programming Interface)を使って、工事状況や事故発生地点、気象、災害情報などHEREが持つ道路に関連したロケーション情報の中から必要なデータを容易に活用できる点が大きな魅力です」。

様々なデータを連携することで新たな切り口からの分析が可能になる、と山口氏。「例えばトラフィックカウンタシステムで渋滞発生地点を検出した際に、HEREのロケーション情報を活用して事故の有無といった渋滞の要因を分析できます。過去のデータから1時間後の渋滞状況もシミュレートできるため『このルートはしばらく回避したほうがよい』といった提案も可能になります」。

さらに、「ルート探索機能を、当社のリアルタイムな交通量データと連携させて、“今”の最短ルートをよりの確に反映することなどもやっていきたいです」と語ります。

プラットフォームを利用する企業を結ぶ大きなコミュニティがあることもHEREの魅力だと山口氏は指摘します。「当社にはないデータや、考えていなかったデータの組み合わせや活用法などのノウハウを共有できます」(山口氏)。

HEREのデータを活用し

事故で発生した渋滞の1時間後の状況もシミュレートできます

山口 陽平氏

株式会社村田製作所 技術・事業開発本部 新領域事業推進部

HEREとの協業で得られるメリット



新たな機能の提供

ルート探索機能などを活用し
交通量データ販売事業のサービス向上



関連情報の詳細な解析

HEREが長年蓄積してきた道路関連情報を使い
交通状況のシミュレーションなどの解析が可能



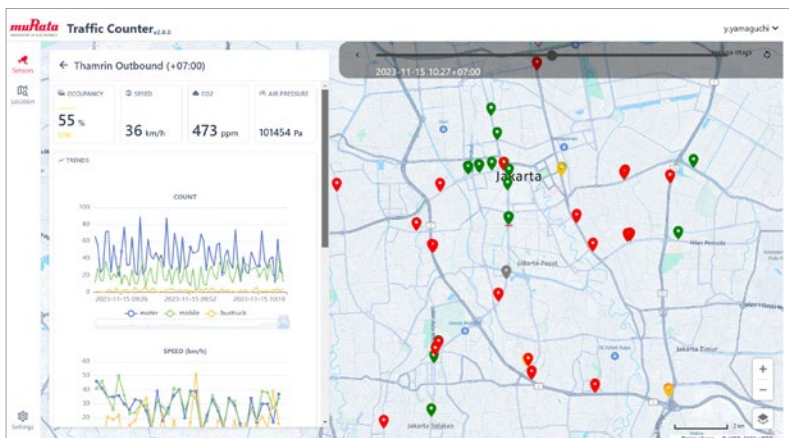
データ正当性の検証

異常値と思われる交通量データについて
事故の有無や気象などの情報を使い検証可能



HEREのコミュニティでビジネスチャンスを拡大

村田製作所はHEREとの協業により、巨大なHEREコミュニティの一員となりました。同社は今後、コミュニティに所属する企業などとのパートナーシップを強化し、データ販売のノウハウを生かして屋外IoTを活用したビジネスも見据えています。



HERE社の提供するプラットフォームに村田製作所のトラフィックカウンタシステムを組み合わせると、交通量だけでなくどの車両がそれぞれののくらいの速度で走っているのかなどを広範囲にわたり確認できる

HEREとの提携により、業種の枠を超えたコラボレーションに大きな期待を寄せていると山口氏は話します。「HEREのプラットフォームを用いて新しい価値を創造していきたいというコミュニティに参加する企業同士なら、パートナーシップを結びやすいでしょう。様々な業種の企業が集まり、知見やノウハウを共有する機会は得難いものです。HEREは、ビジネスの可能性を広げる“場”も提供してくれます」。

HEREのコミュニティを生かし、IoTビジネスを手掛ける企業とのパートナーシップ提携も考えています。「特に屋外IoTの場合は位置情報が必要。当社で取得したデータをHEREのプラットフォーム上で価値のあるものにして届けていきたいと思っています」(山口氏)。

コミュニティの力を借りて自社の交通量データを核としたトラフィックカウンタシステム事業の魅力を高めている村田製作所。他の東南アジアから欧州へ市場を拡大し、データ販売ビジネスを電子部品の製造・販売に続く第2の柱に成長させていくことを想定し「当社がHEREのプラットフォーム上で展開するサービスは進化を続けます」(山口氏)と意欲を語ります。

HEREは、コミュニティという ビジネスの可能性を広げる“場”も提供してくれます

山口 陽平 氏
株式会社村田製作所 技術・事業開発本部 新領域事業推進部

成功に導くポイント



積極的なコミュニティ活動
HEREのユーザー企業で構成するコミュニティでノウハウを共有



幅広いコラボレーション
HEREのプラットフォームを生かしたい企業同士で様々なコラボレーションが可能



海外市場への進出
グローバルでビジネスを展開する
HEREとの提携は海外事業の拡大に効果的



ロケーションサービスを活用する方法を知りたいなら

here

HEREと協業すると何がかわるのか、どんなプロセスなのか、コストはどれくらいかかるのか、などの疑問にお答えします。

確認する

こちらをご覧ください



▶ Case study

ベルリンにあるスタートアップ企業FreightHubの顧客獲得にHEREが貢献した方法 (英語)



▶ Solutions

どのようにHEREがフリートマネジメントに貢献できるか?



▶ Developer

位置情報アプリの開発環境を知る



▶ Event

Partner Day 2023 イベントレポート

HEREとは

HEREは、人や企業、都市を、ロケーションの力で前進させる、ロケーションデータ/テクノロジーのプラットフォームです。私たちは自社のオープンプラットフォームを通じ、お客様がより良い成果を得るためのお手伝いをいたします。たとえばそれは都市のインフラ管理や企業資産の最適化の支援であり、目的地まで安全にドライバーが辿り着くことができるよう指南役として支援します。HEREについて詳しくは下記をご覧ください。最新のロケーションに関するプラットフォーム・クラウドサービス、その他の情報を紹介しています。

360.here.com、www.here.com/jp

We're HERE



▶ Get in touch

